

●世界の主な地震

平成 24 年（2012 年）2 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

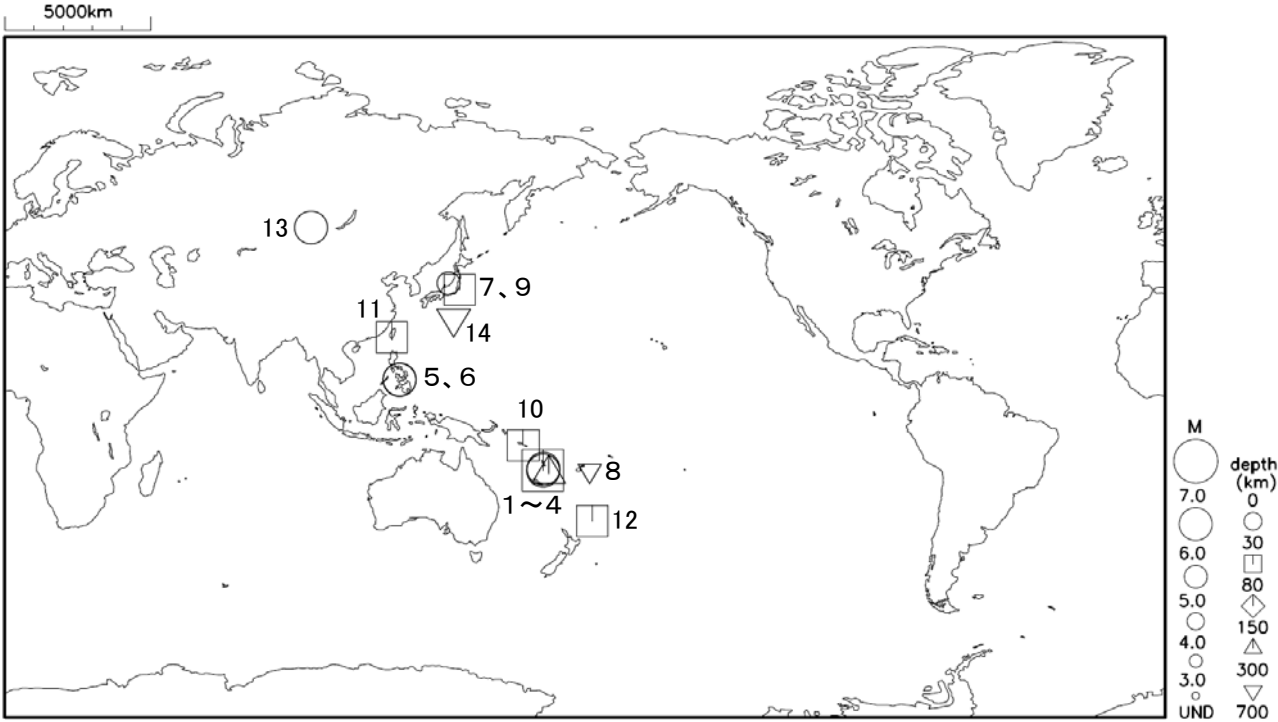


図 1 平成 24 年（2012 年）2 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

* : 震源要素は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュードは気象庁による。
** : 数字は、表 1 の番号に対応する。
***: マグニチュードは表 1 の mb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）、Mw（モーメントマグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。

表 1 平成 24 年（2012 年）2 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北 西	印 洋	遠 地
1	02月02日22時34分	S17° 50.0'	E167° 06.6'	55		6.8	7.1	バヌアツ諸島				
2	02月03日12時46分	S17° 22.6'	E167° 16.6'	8	5.9	5.8	6.1	バヌアツ諸島				
3	02月05日09時15分	S18° 55.4'	E168° 53.8'	171	5.4		6.1	バヌアツ諸島				
4	02月06日01時40分	S17° 56.8'	E167° 13.5'	8	5.9	5.7	6.0	バヌアツ諸島				
5	02月06日12時49分	N 9° 59.9'	E123° 12.3'	11			(6.7)	フィリピン諸島、ネグロス	死者39人以上、行方不明者71人、負傷者54人、建物被害約3,000棟など	○		
6	02月06日19時10分	N 9° 52.9'	E123° 05.9'	9			6.0	フィリピン諸島、ネグロス				
7	02月08日21時01分	N37° 51.9'	E138° 10.2'	13	5.8	(5.7)	(5.4)	佐渡付近	住家一部破損1棟など			
8	02月10日10時47分	S17° 57.6'	W178° 32.2'	576			6.0	フィジー諸島				
9	02月14日15時21分	N36° 13.0'	E141° 35.8'	54		(6.0)	(5.8)	茨城県沖				
10	02月14日17時19分	S10° 23.4'	E161° 06.1'	51	6.2		6.4	ソロモン諸島		○		
11	02月26日11時34分	N22° 38.9'	E120° 46.0'	31		(6.2)	(5.9)	台湾付近	軽微な被害			
12	02月26日14時24分	S32° 29.4'	W177° 44.2'	38	5.6	6.2		ケルマデック諸島南方				
13	02月26日15時17分	N51° 43.1'	E 95° 58.9'	12	6.4	6.6	6.5	ロシア、シベリア南西部				
14	02月29日00時07分	N28° 10.5'	E139° 44.5'	521	5.4	(6.0)	(5.5)	小笠原諸島西方沖				

・ 震源要素、被害状況等は米国地質調査所 (USGS) 発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS (QED) による（平成 24 年 3 月 1 日現在）。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素及びマグニチュード（Ms の欄に括弧を付して記載）は気象庁に、被害状況は総務省消防庁に、Mw の欄に括弧つきで記されている地震のモーメントマグニチュードは気象庁による。
・ 震源時は日本時間〔日本時間＝協定世界時＋9 時間〕である。
・ 「北西」、「印洋」各欄の○印はそれぞれ、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報（NWPTA）、及び、インド洋沿岸諸国に暫定提供しているインド洋津波監視情報（TWI）（地震・火山月報（防災編）2005 年 5 月号参照）を発表したことを表す。
・ 「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

2月6日 フィリピン諸島の地震

2012年2月6日12時49分（日本時間、以下同じ）に、フィリピン諸島の深さ11kmでMw6.7（震源要素は米国地質調査所〔以下USGSと表記〕、Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震について、気象庁は同日13時04分に「破壊的な局地的津波発生の可能性は小さい」旨の北西太平洋津波情報を発表した。この地震の発震機構（気象庁CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

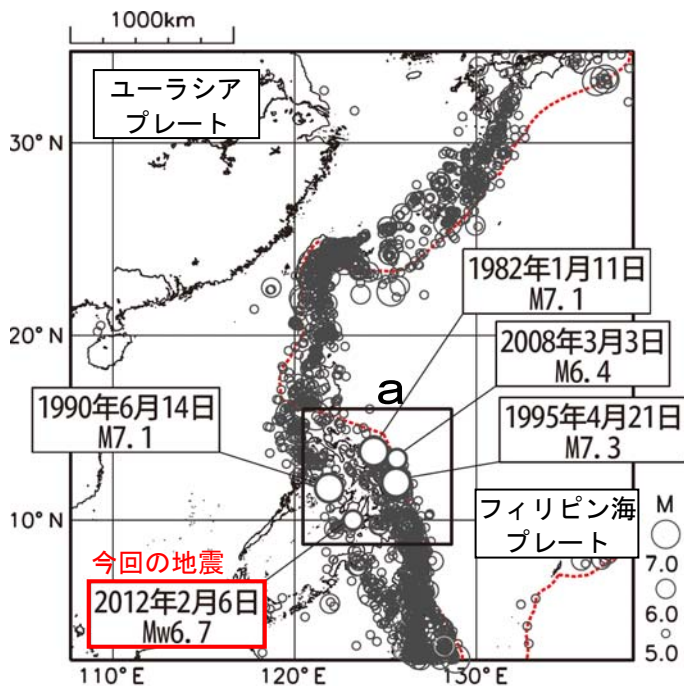
この地震により、死者39人以上、行方不明者71人などの被害が発生した（3月1日現在、USGSによる）。

また、6日19時10分にMw6.0の地震が発生するなど、11日までにM5以上の余震が8回観測された。

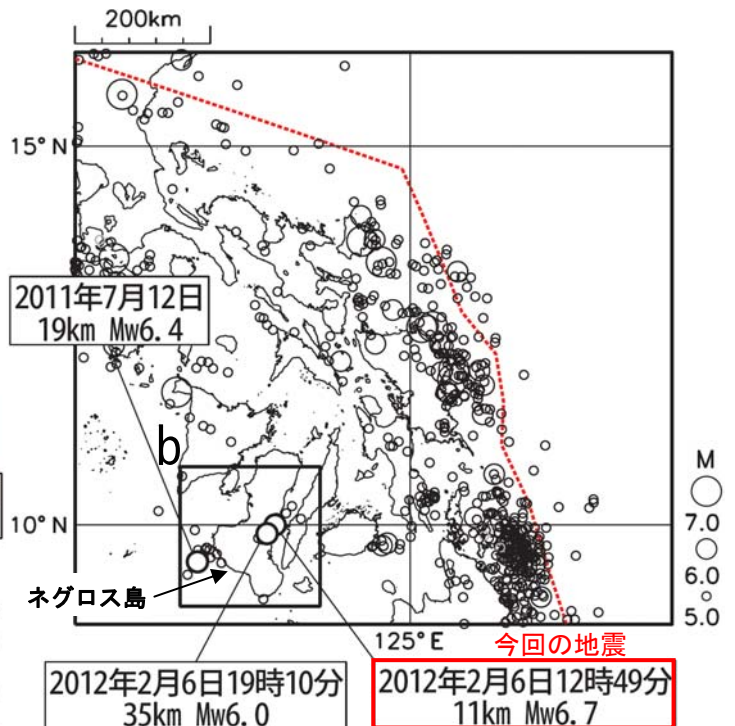
1980年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域b）では2011年7月12日にMw6.4の地震が発生している。

震央分布図（1980年1月1日～2012年2月29日、
M $\geq$ 5.0、深さ0～100km）

2月6日12時49分の地震のMwは気象庁に、
それ以外の震源データはUSGSによる。

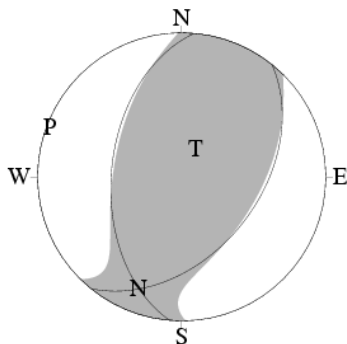


領域aの拡大図



..... はおおまかなプレート境界を表す。

今回の地震の発震機構（気象庁CMT解）



領域b内の地震活動経過図

